

空間放射線量率、水道水の検査に加え 土壌中の放射性物質調査を 始めます

市では、福島第一原子力発電所事故による放射性物質の影響を調査するため、8月17日から空間放射線量率を測定しています。11月14日からは土壌中の放射性物質調査も実施します。市内の保育園や小中学校(43カ所)で実施し、測定結果はホームページ、ヒッツFMや広報たかやまなどでお知らせします。

空間放射線量率は健康に影響のない値です
地上1mにおける空間放射線量率の測定は、8月17日以降、古い町並や奥飛驒温泉郷などで計測してきましたが、測定結果は健康に影響のない値です。

今後も毎月2回ずつ測定を続け、測定の翌日に市ホームページやヒッツFMなどで結

●市内空間放射線量率の測定結果
健康に影響のないレベルです
マイクローベクトル計測
単位: $\mu\text{Sv/h}$

調査日	調査地点	測定値
10月19日	古い町並	0.087
	奥飛驒温泉郷	0.093
10月12日	古い町並	0.092
	奥飛驒温泉郷	0.097

水道水も影響ありません
市では市内の水道水中の放射性物質についても、3月23日から測定していますが、これまで放射線性ヨウ素や放射性セシウムといった放射性物質は検出されていませんのでご安心ください。

果をお知らせするとともに、広報たかやまでも結果を掲載していきます。

また、岐阜県においても飛驒総合庁舎(上岡本町7)で10月20日から、地上1mにおける空間放射線量率を常時監視するモニタリングポストの運用を始めています。この結果についてもホームページでご覧いただけます。

水道水の放射性物質の測定結果も、市ホームページなどで同様にお知らせしていきます。

※空間、水道水とも、測定結果は本庁および各支所でも閲覧できます。

災害廃棄物は受け入れません

市では放射能汚染を全国に拡散すべきでないとの観点から、東日本大震災被災地のがれきに放射能汚染は全くないとの確証を得られていない現状では、被災地のがれきを受け入れることは考えていません。また、平成24年2月から焼却施設の改修工事を予定していることや、これまで飛驒市に委託していた国府・上宝地域の可燃ごみ処理を4月から市内で焼却処理する予定で、処理量が増加する見込であることから受入ができません。

なお被災地への支援については、今後も引き続き取り組んでまいります。

■市ホームページアドレス

<http://www.city.takayama.lg.jp/kenkoushishin/hou.html>

問合せ

危機管理室
35-33345

いのちの森づくり 第二章

地域の森林の木の実を拾い、育てた苗を植樹する「いのちの森づくり第二章」の活動が、10月27日と11月6日に城山公園で行われ市民など約60人が参加しました。

宮脇昭さん(横浜国立大学名誉教授)の指導のもと、今年度から始まった取組みで、第一章として7月に市内3カ所の森の植生を勉強し、今回が2回目(第二章)の活動となります。



宮脇さんから育苗方法を学びました

拾ったコナラやイタヤカエデなどの種は、参加者や市が育て、来年秋頃の第三章の活動で市民のみなさんと協働して植樹する予定です。

●生物多様性地域戦略をすすめる自治体サミット いきものジャパン・サミット

生物多様性の現状や取組みなどについて学ぶ「いきものジャパン・サミット」が10月28日に市役所で開催され、市民など関係者約150人が参加しました。宮脇昭さん(横浜国立大学名誉教授)の「いのちの森づくりが未来を守っていく」との講演のほか、小野木三郎さん(日本自然保護協会)は飛驒地域と世界の自然を比較しながら、事例発表や、飛驒高山高校のギフチョウの生態に関する発表もありました。



飛驒高山高校生徒による発表

また、千葉県流山市長や環境省など関係者によるパネルディスカッションもあり、「人と自然との共生について」というテーマで地域では何ができるかなどについて議論されました。

問合せ 地域政策課 35-3524

毎月28日は「岐阜県防災点検の日」です。災害への備えをチェックしましょう